



国際宇宙天気科学・教育センターの設置について

概要

九州大学は、宙空環境研究センターを改組し、平成24年4月1日付けで国際宇宙天気科学・教育センターを設置しました。センターは、「宇宙天気科学の調査研究を行い、その国際的な研究・教育拠点形成すること」を目的とし、特に発展途上国における科学研究能力の向上に大きく貢献していきます。

背景

九州大学宙空環境研究センターは、2002年の設置以来、学際的な宙空環境科学の創成と宇宙天気予報・デブリ（ゴミ）の警報実用化のための基礎研究を行ってきましたが、近年、地球環境変動への太陽活動の影響、人類の長期間・恒常的な宇宙空間への滞在に伴う放射線・精神医学の必要性など、宙空環境科学としての新しい視点が提示されています。また、センターが展開する全球的地磁気ネットワーク(MAGDAS)を通じた発展途上国との研究教育協働活動や、国際宇宙天気イニシアチブ事業の主導が高く評価され、国連・国際機関や各国研究機関から、九州大学への国際宇宙天気科学・教育センターの設置が強く要請されていました。

内容

こうした背景の下、設置から10年目を迎えた宙空環境研究センターは、2012年4月より

- ・宇宙天気科学としての研究枠組みの拡大と更なる推進
- ・国際的な宇宙天気科学教育センターとしての展開
- ・宙空環境変動と気候変動・災害との関連性の精査
- ・人類の宙空圏進出に伴う医学・生物分野の宙空環境科学への参画

に、取り組む

「国際宇宙天気科学・教育センター：International Center for Space Weather Science and Education」
通称 ICSWSE 「いくせい」＝「育成」

として新しく生まれ変わりました。

効果

本センターの設置により、宙空環境科学の研究枠組みが大きく拡大された、宇宙天気科学の国際的な研究拠点が形成されるとともに、国際的な宇宙天気科学の教育拠点として、特に発展途上国に於ける科学研究能力の向上「キャパシティ・ビルディング」に大きく貢献することが期待されます。

今後の展開

本センターは、

- ・普通の人々が宇宙に行く時代を支える学術基盤の形成
- ・「宇宙気象学・宙空環境科学・宇宙地象学」の基礎の確立
- ・宇宙理学・宇宙工学・宇宙医学を総合的に把握した、問題解決型若手研究者のキャパシティ・ビルディング体制の確立

を目指して、安全・安心な社会基盤の構築に貢献し、更には国内外の教育研究機関と連携した全球的ネットワークの形成と推進を展開していきます。

【お問い合わせ】

大学院理学研究院講師 吉川 顕正

電話：092-642-2672

FAX：092-642-4403

Mail：yoshi@geo.kyushu-u.ac.jp